

CONTENTS COMBAT

2013.May.
No.446

5

Cover Design
favorite graphics (tamao ito),
Cover Photo
Tomo Hasegawa,
©WORLD PHOTO PRESS 2013



【第1特集／実銃】

042 SHOT SHOW 2012 SHOOTING DEMO & MediaDay Shooting

●Photos&Text by Tomo Hasegawa

【第2特集／ミリタリー】

004 New Generation Ttlyer

●by fujiwara

014 中東で最大の軍事見本市 IDEX 2013 Part.1

●レポート：清谷信一 (Shinichi Kiyotani)

076 ニッポンのちからこぶ 日本最大のヘリ部隊「第1ヘリコプター団」

●取材：菊池雅之

【第3特集／TOY GUN】

020 東京マルイ 電動ガンBOYs用18mmアクセサリー

●Photos&Text by Taku

028 WESTERN ARMS NIGHTHAWK CUSTOM FALCON COMMANDER

●Photos & Text by SHOTGUN MARCY

068 Custom Toy Gun Corner カラスプレー講座

●Photos&Text by Taku



032 WESTERN ARMS SV INFINITY5.0 SNAKE LIMITED Ver.2013

●Photos & Text by SHOTGUN MARCY

035 WESTERN ARMS JEFF COOPER MODEL & STURM RUGER SR1911 CDM

●Photos & Text by SHOTGUN MARCY

060 Goods & Accessory

080 世界の兵士図鑑

現代のアメリカ海軍 さまざまな制服と徽章類

●イラスト・解説：坂本 明

084 サープラスいじり技術研究所

●写真・文：織本知之

085 Militaria Roundup! ガスマスク&毒ガス防護装備 Part.2

●解説：菊月俊之 ●写真：宮坂政邦 (WPP)

096 PRESENT

130 トイガンニュース

130 WA コルトMkIVシリーズ'70/スウェンソン・カスタム)

131 WA レミントン/モデル1911R1

132 WA コルトMkIVシリーズ'70(セブン/ミルズ・カスタム)

133 WA コルトMkIVシリーズ'70(ハンター・ビンテージ・エディション)

133 バトスプロジェクト コルトポケット.49シルバーブレイテッドモデル

134 The Equipments of the U.S. Force

[現用米軍装備カタログ] 第104回

米国特殊部隊のMULTICAM迷彩装備Part.1

●解説：松原隆 (高知ボンバーズ) ●撮影：山崎 学

184 中田商店グッズ

186 S&Grafグッズ

097 GAME OVER THE TOP!

100 物欲ワンホール

ROUND 19:サバイバルキットPart.2

104 レア・ミリタリー・テクノロジー

108 ミリタリー雑学講座

112 ミリタリー・コレクション

114 幻妖中隊 #mod.19 ●by FUJIWARA

116 アメリカGUN事情 Guns Talk from US

118 APS公式記録会&練習会

120 COMBAT RECOMMEND MOVIE特別編

本誌独占・監督インタビュー!

セデック・バレ 第一部:太陽旗/第二部:虹の橋

122 蛙のゆびさき(中山 蛙)

124 トイガンズジャンクション

161 バックナンバーリスト

162 読んで覚える TakuのHOW TO Shooting 射撃のススメ

164 帰ってきた 狩野健一郎の[監督、そこにおっぱいは必要ですか!]

166 A STITCH IN TIME

167 こちら神保町軍装店

168 ビバ! ナイフ

170 狩野健一郎のシネマ放浪記

171 狩野健一郎の新作DVD紹介

172 コンバットマガジン・インフォメーション・センター

175 読者プレゼント応募方法

176 編集後記



中東で最大の軍事見本市 **Part.1** IDEX 2013

オープニングセレモニー

●リポート:清谷信一(Shinichi Kiyotani)

オープニングセレモニーに出席した中国の代表团。制服組だけでも15名ほどおり、他に文官も多数見かけた。



①IDEXで唯一見られた日本のプレゼンス(存在感)はオーストラリアの和太鼓パフォーマンス・グループだけだった。日本からは商社マンもほとんど来ていなかった。②オープニングのUAE軍の軍楽隊。旧宗主国が英国だったのでバグパイプを使用している。③UAEの女性兵士によるライフルドリル隊。彼女らもオープニングセレモニーの常連だ。みなまだあどけない表情をしている。④オープニングに花を添える少女たちの踊り。⑤伝統的なアラブ式騎兵も登場。⑥各国デリゲーション。⑦会場風景。

今年もUAE(アラブ首長国連邦)の首都アブダビで、世界最大級の軍事見本市「IDEX(International Defence Exhibition)」が2月11～15日に渡って行なわれた。会場は例年通りアブダビ国立見本市会場である。前回は若干、海上自衛隊からの参加があったものの、今



情報収集に熱心な人民解放軍将校。

回防衛省からのデリゲーション(代表团)も訪問者はなく、例によって近隣諸国の防衛駐在官らも参加していないようだった。

IDEXは中東最大の軍事見本市でありアラブ世界はもとより、世界中からデリゲーションがやってくる。このため軍人同士の交流、情報交換、信頼熟成の場となっている。諜報機関が存在しない我が国はこのような機会を最大限に活かすべきだ。ところがこのような場での活動を自ら放棄している。近隣の防衛駐在官からすら来ていない。問題は軍事情報収集だけではない。我が国のプレゼンスもないことだ。アラブ世界は尚武の気風が強い。つまり



カラカル社のブース。

軍隊を非常に重要視している。このような場所に日本の代表团が来ないのは外交の面からも日本のプレゼンスがないということだ。これは外交上も大きな損失である。唯一日本のプレゼンスを示したのはオープニングセレモニーでの和太鼓のパフォーマンスだけだっ

たが、これはTAIKOZ(タイコース)というオーストラリアの和太鼓のパフォーマンスのグループだった。IDEXでは日本の軍事的なプレゼンスと情報収集の脆弱性をいっなくな感じた。

対して中国は人民解放軍の制服組だけでも15名ほどの代表团を送り込んでいた。彼らの訪問には武器の売り込みの援護射撃という側面もあるだろうが、中国のプレゼンスの維持、拡大も大きな任務であるはずだ。

今回筆者がもっとも注目したのはスーダン政府の出展である。スーダンの出展は初めてにもかかわらず、かなり大きなスペースを確保していた。メインブースとは別に、商談用のスペース

まで確保していた。スーダンでは中国が資源外交の一部としてこれまで兵器工場を建設、兵器の現地生産を行ってきた。同国内でのダルフル紛争では政府が国民を虐殺してきたが、使用された兵器の多くは中国製であり、中国は国際的な批判を浴びてきた。この虐殺において、現地で生産された「中国兵器」が使用された可能性は高い。

今回スーダンが展示したのは銃器やRPGなどの小火器、軽火器などから無線機、暗視装置、車輛、自走榴弾砲、戦車、ヘリコプターやK8練習機、Su-25攻撃機のシミュレーター、航空機などまで広範囲に及んでいた。スーダンの技術レベルではこれらをすべて国産化

するのは不可能だろう。小火器類はともかく、高度な装備は恐らくはスーダンでは単に組み立てだけ、あるいはラベルを貼り替えただけの「スーダン製兵器」が多いのではないだろうか。恐らくは中国政府は兵器のロンダリングのためにスーダンを利用しようとしているのではないと思われる。国内で国民の虐殺に使用されようが、シリアなどの紛争地域や、ハマスなどのゲリラに売ろうと、それはスーダン製兵器であり、中国は関係ないと主張するつもりだろう。その他今回は中国とアラブ圏の出展を中心に紹介し、次号の後編ではその他の国々の装備を紹介する。

スーダン関連



①スーダンの先進歩兵システム「KOMBO」。ヘルメットにはアイ・モニター、M16をコピーしたライフル(カタログでは95式自動小銃が使用されている)にはサーマルイメージャー/ビデオカメラが搭載され、胸にはGPSを内蔵したPADが装備されている。②側面には無線機が装備され、後部にはバッテリーなどが搭載される。ハーネスはモールシステムを採用している。③122mm自走榴弾砲、GHY02、カリファ。ロシアのD-30牽引式榴弾砲をベースにした砲がトラックに搭載されている。戦闘重量は20.5t、最大射程17km、射撃時には後部に駐鋤を下して車体を固定する。④HF無線機「SSZ06」と「アザリ-02」。その他複数の戦術無線機が展示されていた。⑤液冷式サーマルイメージャー「SMZ07ジディアン」。車載用で320×256ピクセル、スペクトラル・レンジは3.7～4.8μm。



東京マルイ

電動ガンBOYs用18mmアクセサリー

ユーザー待望の電動ガンBOYs用アクセサリー各種登場!!

Photos&Text by Taku

東京マルイ: <http://www.tokyo-marui.co.jp>





ラスベガス北東の郊外にあるボリスシューティングレンジで、あのウィルコックス社が参加する試射会が開催。規模は小さいが中身のこゆい試射会だった。

SHOT SHOW 2013

SHOOTING DEMO

Photos&Text by Tomo Hasegawa

MEDIA DAY SHOOTING

“ショットショー”

毎年開催される世界最大の銃器見本市。何回経験していても、その規模の大きさには毎回新鮮に驚いてしまう。その期間中、会場内の展示だけでなく、メーカーによって試射会を開催している。モノがモノだけに性能など銃の魅力は伝わりにくい。

そこで、新製品や人気のモデルを実際に撃ってもらえば、より魅力がアピールできるというわけだ！

内容の濃さからすると「むしろこちらが本番!?」ともいえる、ショットショー裏レポート“シューティング デモンストレーション”！



HK416、ウィルコックス社の装備品付きで撃てる。特殊部隊気分が味わえます。



Custom Toy Gun Corner

Photos & Text by Toku

カラスプレー講座

●CAROM SHOT: ☎052-795-5855 (<http://www.caromshot.com/>)
●G.SMITH.S: ☎075-466-5177 (<http://www.g-smith-s.com/>)

カスタムは市販品に手を加えて自分好みに変更する行為の総称である。ネジ交換のようにドライバー1本で手軽に行なえる簡単なものから、アクセサリーの装着や原型を留めないほどに加工を施すモノまで幅広い。

さまざまなカスタマイズの方法の中でも、カラーリングは初心者にとっては少々難易度の高い部類に入るかもしれない。なぜなら、カラーリングをどこに塗装を施すか、どんな塗料を使うかによってその難易度はまったく違って来るからである。しかし、難しいとはいっても加工するワケではないし特別な道具がないとできないということもない。基本的なことさえ覚えておけば、意外と簡単なのもカラーリングなのだ。

さて、トイガンに塗装するにあたりどんな塗料が必要になるのか？ ホームセンターや模型店で購入できるカラスプレーを

使用するのももちろん構わないが、せっかくガンにカラーリングを施すのだから、専門メーカーから発売されている塗料を使用してみるのはどうだろうか。もちろん一般的なカラスプレーであっても色は塗れるし、イメージは変えられる。しかし一般的なカラーはトイガン用ではないので、色は変えられても、質感までは再現できない。その点、トイガン専用に開発された塗料は、色合いや質感にこだわっているため、マニアも納得の仕上がりになる。また、これらの塗料は塗装後の表面硬度も高く、少々ラフな取り扱いをしてもキズが付きにくい。それに仕上げ方次第では、金属ソックリの質感や色合いを再現することもできるのだ。

というワケで、この「カラーリング講座」では、カスタムガンメーカーが製造販売する、トイガン専用カラーをピックアップし、トイガンへの塗装と同じ状況を再現するためABS板へ塗装を施し、その色合いや

硬化具合などをインプレッションしていく。

トイガン用のカラスプレーは一般的な塗料にくらべて少々高価。したがって、気軽に買って試してみるワケにいかないのがツライところ。使ったことがある人に聞いてみるのが一番の早道だが、都合よくそんな人はいないかもしれない。そんな人は、このコーナーを見てぜひ塗装の参考にしてみたい。

詳細に関しては各商品のコメントをご覧ください。ここではカラーリングをキレイに仕上げるちょっとしたコツを紹介しよう。どれも基本的な事なのでしっかりとマスターしておくとう便利だ。

塗装のための下準備

その1 完全分解し油分を落とす

カラーリングを行なうには、可能な限り分解して油分を除去しておく必要がある。油分が塗装面に付着していると、塗料がはじかれてしまい、仕上がりにムラが出る。それを防ぐためには、ガンを完全分解し、塗装するすべてのパーツを中性洗剤やパーツ



スプレーカラーは、お湯などで温めてから使用すると塗料の混ざりもよくなり、ガスの圧力も安定する。ガスの圧力が低いままだと、塗装がムラになったりすることもあるので、キレイに仕上げたいならば忘れずにやろう。お湯の温度はお風呂より少しぬるくらいでよい。



塗装面は、塗料の喰い付きをよくするために600番くらいの紙ヤスリで荒らしておこう。あまり荒いヤスリを使うと、塗装面に浮き出してしまうので注意が必要だ。



塗装したくない部分にはマスキングテープを使用してカバーしておく。カバーする際は必ずマスキングテープを使うように。他にも色んなテープはあるが、専用で作られたモノが一番キレイに仕上がる。



温めたカラスプレーは使用する前に充分攪拌する。この攪拌が不十分だと、塗装面がムラになったりしてキレイに仕上がりえない。スプレー缶の中には攪拌用のボールが入っているの、そのボールが滑らかに動くようになるまで振る。



スプレーする際は、30〜40cm程度離して一定のリズムで動かす。塗料を塗布する際は、タテヨコ方向を決めて動かし、厚塗りし過ぎないように様子を見ながら行なうように。塗り方が雑だとムラになってキレイに仕上がらなくなるので注意が必要だ。

クリーナーなどで洗浄する。

ガンを完全分解したら、まずティッシュなどでパーツについているオイルやグリスを除去する。いきなり中性洗剤で洗浄する手もあるが、オイルやグリスはかなりガンコなので落とすのに苦労する。そこで、あらかじめティッシュなどで拭き取っておくと作業がラクになるのだ。

パーツクリーナーを持っている人は、中性洗剤で洗う前に使用すると、より完全に油分を除去できる。パーツクリーナーの中には洗浄面にクリーナー成分が残ってしまうものもあるので、洗剤で洗う前に使用することをオススメする。

スプレー缶は温めてよく混ぜる

カラスプレーは説明書にもあるように、しっかりと攪拌して使用する。さらに、冷たいまま使用するのではなく、缶を温めて入っている塗料の温度を上げると、よりキレイに仕上がる。攪拌することはスプレー缶の横にある説明書にも書かれているが、忘れてしまう人も少なくない。

攪拌するだけでもかなりキレイには仕上がるのだが、さらに完璧にしたければ、缶を温めて塗料を活性化させておくと、塗料

の乾燥も早く、また発色もキレイになる。

缶を温める際は、ストーブや火に直接近づけないこと。缶の内部には可燃性のガスが入っているため、急激な温度変化は、缶の破裂といった事故を引き起こす可能性がある。そういったキケンを防ぐためにも火気は厳禁なのだ。その点、40℃前後のお湯ならば、缶の温度が急激に変化することはない。缶を温める際は、人肌程度であれば充分。それ以上は必要ない。あまり温め過ぎると、今度は逆にムラになったりする。そうならないように、缶を温める際は、様子を見ながら行なおう。

塗装が乾燥するには時間が掛かる

塗料の乾燥時間はスプレー缶の側面にある説明書に書かれているのはご存知の通り。乾燥時間に関しては塗料に含まれる有機成分の揮発状況によって変わってくるので、使用する塗料でそれぞれ違う。さらに気温や湿度、塗膜の厚さによっても異なってくるのだ。

こういったことに関しては、何回か塗装して経験を積むとわかってくるが、はじめのうちはなかなかわからない。せっかくキ

レイに塗装しても、生乾きの状態で触ってしまえばすべてが台無しである。そうならないためにも、塗料が乾くまではしばらく放置しておこう。

とはいえ、一刻も早く組み上げてみたくなるのは自然の摂理。少しでも乾燥時間を早くしたいのであれば、塗装したパーツをドライヤーなどで温めると硬化時間は早くなる。これは、温めることで塗料の中の溶剤が活性化し揮発するからだ。ひとつ付け加えておくと、温めることで確かに乾燥は早くなるかもしれないが、これは表面的な部分の乾いただけであり、実は内部まで完全に乾燥したワケではない。塗膜の内側の塗料が完全に乾燥するまでには数日を要する。塗装後の磨き込みなどを行なう場合は、最低でも夏場ならば5日、冬場であれば1週間以上置くように。すべての作業をムダにしないためにもガマンが必要なのだ。

換気には充分注意する。

トイガン用に発売されているカラスプレーの多くには有機溶剤が含まれている。ご存知だとは思いますが、この有機溶剤は人体によくなかったりする。またかなりニオイも強い。長時間吸い込めば頭が痛くなったりすることもある。そうならないためにも、換気は充分行なうようにしよう。

模型メーカーから換気フィルターを装備した専用の塗装ブースのような製品も発売されているが、かなり高価なので気軽に揃えるというワケにもいかない。ニオイもイヤだし汚れるのも困るという人は、屋外で塗装するのがよいだろう。塗料が飛散しないようにダンボールなどで四方に壁を作り、その中で塗装をすれば、周囲も汚れないし風の影響も受けにくいのだ。

以上のことに気をつけながらカラーリングにチャレンジしてみたい。はじめはなかなか上手くいかないかもしれないが、何回かやればスグに慣れてくる。

思い思いのカラーリングを行なって、自分だけのカスタムガンを作り上げよう。